

つばね 長岡 まき

加波山のもとに位置する真壁町は昔から良質の花崗岩を産出することで知られ日本三大石材産地のひとつにも数えられる。明治時代には迎賓館（旧赤坂離宮）造営にも用いられ、全国的にも有名になった真壁石。ここで五十年続く石材店の二代目社長、長岡茂さん（左）は「日本一の石です」と誇らしげだ。

（池田進一）

長岡石材店

——真壁石の特徴とはどのようなものなのでしょうか

「通称『つばねかけ石』と呼ばれる花崗岩です。真壁石の中にも石の目の粗さによって細かいものを小目、それに比べて粗いものを中目と呼びます。うちでは小目を扱っていますね」

——主どのようなものを作っているのでしょうか

「墓石や灯籠といったものが主な製品になります。探掘現場などでは重機なども使っていますが、灯籠を作るときにはまだまだ手作業も多いですね」

——自社の石に「髓栄の石」と名づけ、ブランド化されたのはどうしてですか

「まず『髓栄』の髓は物事の中で欠くことのできない重要な部分という意味です。すべての中

「日本一」の誇りで

心をなせる石になってほしいという願いを込めて平成十一年に名づけました。ブランド化することで中国産の安い石などと



の差別化を図るといって一番の目的です。そして、全国の石材店や産地証明書なども発行しています」

——「髓栄の石」を具体的にどのように営業されているのでしょうか

「探石場から石を切り出す作業を撮影してプロモーションビデオを作成したり、全国の石材店や寺社にダイレクトメールを送ったりしています。おかげさまで関西や北陸からも注文が来るようになりました」

——探石場から加工まですべて国内で行っているのですか

「同じ探石場から採った石でも、いい石と悪い石が出る。いい石はもちろん製品にしますが、悪い石や途中で出るいわゆるクズ石を使って護岸工事などの石積み利用で売ればと考えています」

——これからの石材業界はどのように変化していくのでしょうか

「墓石などの需要は減ってくると思います。建材や土木用の材料など真壁石の特徴を生かしたさまざまな使い道を考えていくことが必要でしょうね」

自社の石を「髓栄の石」と名づけブランド化に成功。全国300カ所以上の石材店におろしている。モニメント作成も積極的に行い、陸上自衛隊霞ヶ浦駐屯地にも県知事賞を受賞したモニメント「燧」が設置されている。本社は真壁町長岡719ノ1。☎0296・55・0586。

「探石はもちろん国内で行っていますが加工は十二年から中国の廈門で行っています。現在では墓石や灯籠の約九割を中国で加工しています。製品の出来映えも国内とそう変わりないですし、なにより人件費が国内の半分、済むというのはいやほいや魅力的です」

——今後はどのような事業展開をされていくのですか

「同じ探石場から採った石でも、いい石と悪い石が出る。いい石はもちろん製品にしますが、悪い石や途中で出るいわゆるクズ石を使って護岸工事などの石積み利用で売ればと考えています」

——これからの石材業界はどのように変化していくのでしょうか

「墓石などの需要は減ってくると思います。建材や土木用の材料など真壁石の特徴を生かしたさまざまな使い道を考えていくことが必要でしょうね」

迎賓館にも使われた「真壁石」

ブランド化で輸入に対抗

探石場の前に立つ長岡社長。最近では来客は少なくなりましたが、現場を大事にしている

——真壁町長岡